

Weekly-Report



調査課 菊川 弘之

C X 週間展望 (4月12日~)

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで《今週は7日の米FOMC議事録(3/16-17日開催分)と、8日のパウエルFRB議長によるIMFパネルディスカッションが注目。

ワクチン接種進展+追加経済対策で経済成長が顕著で、物価もターゲットを超えて上昇しているにも関わらず、超緩和的姿勢維持が示された3月のFOMCについて、議事録でどのような議論があったかが注目。緩和姿勢維持が強調されると、インフレ期待拡大から長期金利の上昇要因となる。利上げの前に実施されると見られる量的緩和の縮小(テーパリング)に向けたヒントの有無にも注意したい。

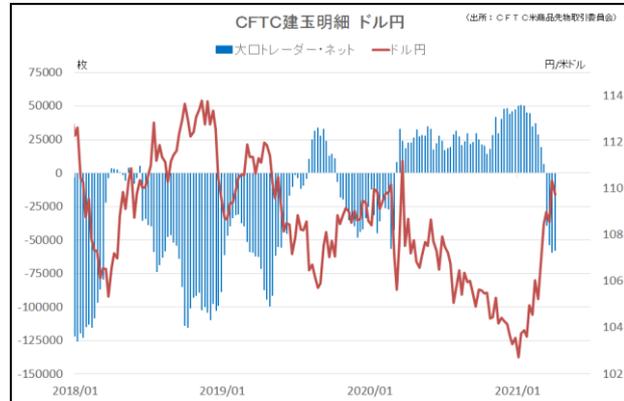
3月のトレンドと4月のトレンドが転換しやすいアノマリーには注意》としたが、先週は、米10年債利回りの調整で、ドル円も調整安局面入りとなった。

5日発表の3月の米ISM非製造業景況指数、3月の米サービス業PMIなど予想比上振れする経済指標が発表されても米長期金利は影響を受けにくくなっている。米長期金利は、米国の景気回復や経済指標の改善をかなり織り込んできたとみられ、上昇しにくくなっている。

一方、7日に発表された3月16~17日開催分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では、「雇用の最大化や物価の安定に進展がみられるまではしばらく時間がかかる。新型コロナウイルスにより、先行きは不透明」などと、従来からの慎重姿勢を堅持していることが示され、「利回り上昇は経済見通しの改善を反映」とし、早期の利上げや量的緩和の縮小(テーパリング)観測は後退。

8日に開催された国際通貨基金(IMF)のパネル討論会でも、パウエルFRB議長は、「物価上昇は加速しても一時的」「持続的なインフレとはならない」との認識を示し、金融緩和が長期化するとの見方が改めて意識された。

週間の米新規失業保険申請件数は74万4000件と、増加幅は市場予想(69万4000件)を上回り、米労働市場への楽観論がやや後退したこともドル売り要因となった。



¹ -当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report


日産証券

C X 週間展望 (4月12日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)**【週末のNY市場】**

週末のドル円は、3月の米卸売物価指数(PPI)が市場予想を大幅に上回り、米長期金利が上昇した。米物価上昇や日米金利差の拡大を手がかりに円売り・ドル買いが優勢だった。3月のPPIが前月比1.0%上昇し、市場予想(0.4%上昇)を上回った。前年同月比では4.2%上昇と2011年9月以来の高い伸びだった。NYダウが過去最高値を更新した事も一因。



CFTC建玉明細(4/6現在)は、57,989枚の売り越し。前週(59,481枚の売り越し)から縮小。

週末のNYダウは3日続伸し過去最高値を更新。米経済活動の正常化への期待や緩和的な金融政策の長期化観測から、景気敏感株を中心に買いが優勢だった。

クラリダFRB副議長は9日、インフレについて今年予想されるインフレ率の政策目標に対する上振れは「一時的」と述べたと伝わった。経済活動の正常化が進むなかでも、FRBによる緩和的な金融政策は当面続くとの見方を後押しした。

来週から発表が本格化する米主要企業の2021年1~3月期決算が好調な結果になるとの期待感も一因。

【今週見通し・戦略】

第1四半期のドル高の調整局面入りとなっている。過去も3月と4月のトレンドは逆転しやすい傾向が確認できる。大口投機玉の円売りポジションも膨らんでいる。米国のワクチン接種の進展と、巨額財政刺激策に伴うインフレ期待が長期金利を押し上げ、ドル高要因となっていたが、FRBは慎重スタンスを固辞している中、金利上昇思惑に対するドル買いは一巡した格好。新年度入りした事もあり、市場は新たなテーマ探し。IMF世界経済見通しでは、前回から上方修正された地域が多かったが、世界的にワクチン接種が進むようであれば、米国と比べて出遅れていたユーロや新興国通貨買いの動きに。一方、強気の経済指標などを受けて、市場の関心が米出口戦略に向かうなら再びドル買いの展開も。レンジ内での推移をしながら次の材料待ちの展開か？ポンド絡みの動きにも注意したい。

2
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金先物(4/9 清算値:6,152円)(1)**【前週レビュー】**

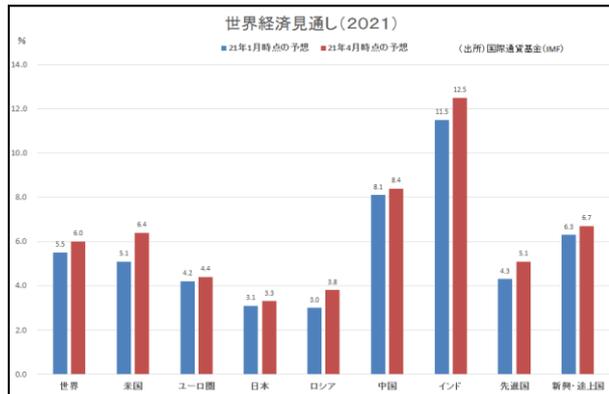
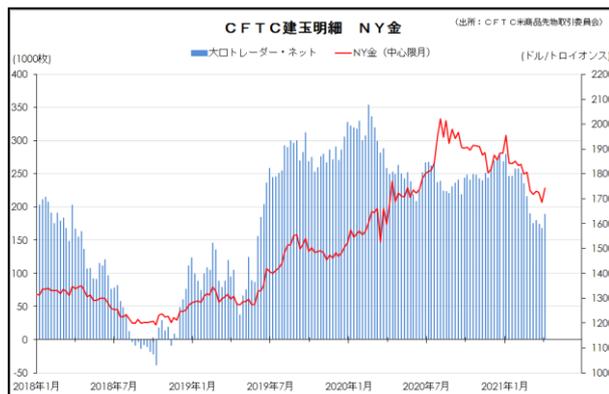
先週レポートで「強気の雇用統計もあり、米金利上昇圧力は継続しそうだが、米金利上昇に伴う金の下落は、1700ドル割れで、かなりの部分、織り込み済み。」

RSIは、逆行減少を形成しており、NY金は、ダブルボトム形成中。ネックライン(3/18 高値:1756.1ドル)を上抜くと、ダブルボトム完成となる。その際に、10年債利回りが、ネックライン(3/24 安値:1.589)割れなら、金の底打ち感の信頼性は高まる」としたが、先週のNY金(6月限)は、外国為替市場でドルが主要通貨に対して売られ、買いが優勢で始まった。米

雇用統計が好調な内容となったが、米国債の利回り上昇が一服し、ドル安に振れた。米国債の利回り低下や、国際通貨基金(IMF)が世界経済見通しで、今年の世界の成長率予想を上方修正し、これまで対ドルで売られていたユーロが買い戻され、ユーロ高ドル安を受けて金は堅調となった。IMF世界経済見通しで、今年の世界の成長率予想を6%に上方修正した。

米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では、経済は改善しているものの、FRBが見据える目標の達成には程遠いほか、新型コロナウイルスによるリスクが根強く、先行きはなお「極めて不確実」という認識で一致した。

パウエルFRB議長は、国際通貨基金(IMF)のパネル討論会で「年内に物価が上昇する公算が大きいとしつつも、持続的なインフレとはならない」との見解を示し、金融緩和の長期化観測が意識され、週末にかけて上値を伸ばした。



金先物(4/9 清算値:6,152円)(2)**【週末のNY市場】**

週末のNY金(6月限)は、反落した。3月の中国の生産者物価指数(PPI)の大幅上昇、ユーロ安・ドル高、米10年債利回りの上昇を受けて売り圧力が強まった。3月の米PPIが事前予想を上回り、ドルが堅調に推移したため、軟調に推移した。今月に入り、上昇基調となったが、心理的節目1750ドル超えまで上昇し、当面の高値目標まで戻したことで利食い売りも含めた手じまい売り先行ムードとなった。CFTC建玉明細(4/6 現在)は、189,509枚の買い越し。前週(167,528枚の買い越し)から拡大

**【今週見通し・戦略】**

NY金(6月限)は、1700ドル割れでは買い拾われ、ダブルボトムを形成中だ。ネックライン(3/18 高値)を明確に上抜くと、ダブルボトム完成となる。一目均衡表からの上値目標は、N=1757.2ドル、V=1834.9ドル、E=1836ドルなどがカウント可能。金と逆相関の米10年債利回りが、ネックライン(3/24 安値)を割り込みダブルトップ完成なら、金のダブルボトムの信頼性は高まる。

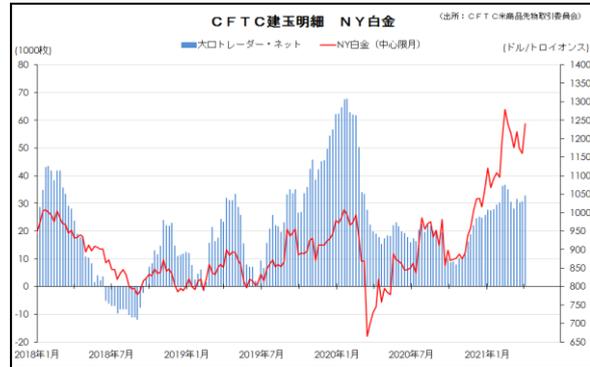
金価格が年初から下落基調にあったこともあり、アジアの需要が急回復している。新型コロナウイルスの影響で去年の宝飾用需要は過去最低となったが、足元で金需要大国の中国・インドの需要が増加している。

一方、世界的な債務増大に伴う「通貨全体に対する信認低下」から、「暗号資産」がヘッジファンドや、機関投資家に投資対象として認識され、「金」からポートフォリオのリバランスが行われていることが、金の上値抑制要因となっている。ただ、ビットコインのマイニングは、ケンブリッジ大学の試算で小さな国に匹敵するような電力127.7テラワット(一時間当たり)を消費し、環境破壊につながるとの指摘もある。ダブルボトムから上げ加速とならなかった場合でも、3月に付けた2点底を割り込まない限り、多くのトレンドフォロー型指標は陽転(買い維持)したままで、中長期的な上昇トレンドに変化は出ない。価格帯別出来高の厚い1700ドル水準で底固めしていこう。

4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金先物(4/9 清算値:4,277円)**【前週レビュー】**

先週レポートで《アルケゴスショックの余波から株価の大幅な崩れがなければ、2020年3月安値を起点とした上昇トレンドが継続しそうだ》としたが、先週のNY白金(7月限)は、強気の雇用統計に続き、3月の米サプライマネジメント協会(ISM)の



非製造業景況感指数が大幅に上昇、統計開始以来の高水準を記録したことを好感して始まった。国際通貨基金(IMF)が世界経済見通しで、今年の世界の成長率予想を上方修正した事も、需要増加期待に繋がった。英製薬大手アストラゼネカの新型コロナウイルスワクチンについて、欧州連合(EU)当局が7日、血栓との関連性を認めたと伝わり、ワクチン接種の遅れ懸念などからユーロ安ドル高に振れたことを嫌気する場面もあったが下値は限定的。パウエルFRB議長がIMFパネル討論会で「年内に物価が上昇する公算が大きいとしつつも、持続的なインフレとはならない」との見解を示し、金融緩和の長期化観測が好感された。

【週末のNY市場】

週末のNY白金(7月限)は、反落。ドル高を嫌気し、手じまい売り先行ムードが強まり、下げ幅を拡大し、4月1日以来の安値となる1193.2ドルまで下落した。CFTC建玉明細(3/30現在)は、32,748枚の買い越し。前週(30,606枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

内外共にダブルボトムを完成したものの、上値は走らず、ネックラインを割り込んでいる。再度、ネックラインを上抜いてくると、リターンムーブからの反発パターンだが、英アストラゼネカのワクチンと血栓症の発症が関連している可能性が指摘され、ユーロの上値が抑えられていることが嫌気された。8日までに使用に年齢制限を設定する国が相次ぎ、購入をストップする動きも出ている。ワクチンの副作用と接種の行方に加え、欧州諸国のロックダウン(都市封鎖)解除の行方が焦点。金と白金の鞘取りは、%Bが低水準でもち合っており、逆張り対処。

5
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ゴムRSS3(4/9 清算値:234.8円)**【先週レビュー】**

先週レポートで「9月限一代足ベースも、8月限同様、納会にかけては、値を崩す傾向がある。当先の鞘も、順鞘に変化しており、中長期的な鞘滑りが意識される内部要因。今年は新型コロナウイルスの影響で2年連続、お祭りは中止だが、タイでは通常、4月のソクランの水祭りが終わると、減産期(落葉期)終了が意識される。過去の季節傾向通り、戻りは売られやすいか?」としたが、先週のRSS3号は、上海安を受けて、下値を試す展開となった。薄商いの中、チャートポイントを割り込み下げ加速となった。



上海市場では「中国当局が投機抑制に動いている」との噂や、世界的な半導体不足による自動車メーカーの減産の影響も一因。

産地はウィンタリング(落葉期=減産期)に入っているものの、産地価格の上昇は限定的。当先限の順鞘は、先限に売り物が集まり、縮小した。

【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、3月31日現在9,882トン(前旬比605トン増)。3月下旬の入出庫は入庫1,269トン、出庫664トン。

【今週見通し・戦略】

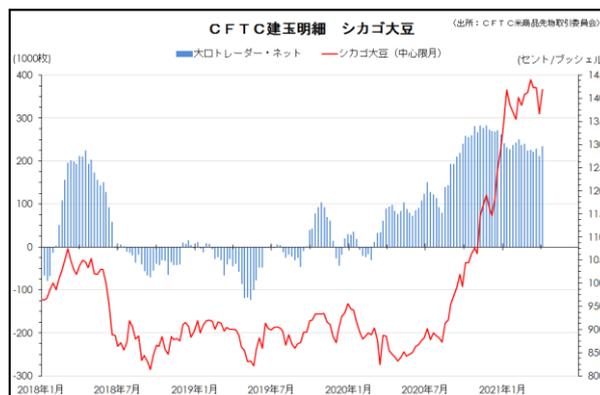
当先の順鞘は縮小したものの、先限売りによるもので3月限納会後の期近の動きに、需給ひっ迫感は乏しい。タイオファーから、輸入採算価格を求めると、235円前後で底値に接近中との見方もできるが、日本の先物市場は、タイオファーに対し、10円前後の下ザヤとなるケースもある点に注意。

足元の日本市場の下落は、上海主導であり、上海が節目を割っても下げ加速とならなければ、買い戻しから急反発パターンもあり得る。一方、押し目買い玉を投げさせるようなずるずると下値試しのような展開も想定され、買いは上海市場の下げ止まりを確認してからの方が無難。

6
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

一般大豆先物(4/9 清算値:46,000 円)**【先週レビュー】**

先週レポートで「コーンの作付が順調であれば、大豆にとっては強気、コーンの作付が順調に推移しなければ、農家のコーンから大豆への作付シフトが連想され、大豆にとっては弱気要因となる」としたが、先週のシカゴ大豆（5月限）は、前週末の反落で買い修正も一巡したとの見方が広がる中、作付意向面積を受けた需給ひっ迫



に対する警戒感が再燃し、買い優勢で始まった。また、欧州連合（EU）の20/21年度の4月4日までの大豆輸入量が前年度を上回っていることも強気材料となった。一方、ブラジル大豆輸出シーズンが本格化する中、今後の米国大豆輸出が圧迫される可能性が浮上していることが上値を抑えた。

週末のシカゴ大豆（5月限）は、反落。USDA需給報告で南米諸国の生産量上方修正を受けた世界の期末在庫量の上方修正が弱材料となって軟化。

CFTC建玉明細（3/30 現在）は、233,803枚の買い越し。前週（2/1, 679枚の買い越し）から拡大。

【週間純輸出制約高（4月1日までの一週間）】

大豆：24万6100トン（事前予想レンジ：10万～70万トン）

【今週の見通し・戦略】

3月末発表の作付意向面積が事前予想を下回ったことによる需給引き締めりが根強く警戒されている。米期末在庫率は3%を下回る見通しで、作付意向面積からは21/22年度大豆需給はさらにひっ迫する可能性がある。

週間純輸出成約高からは、米国の輸出が低迷している状況が窺われるが、収穫を終えたブラジル大豆輸出が活発化する時期を迎えているため。

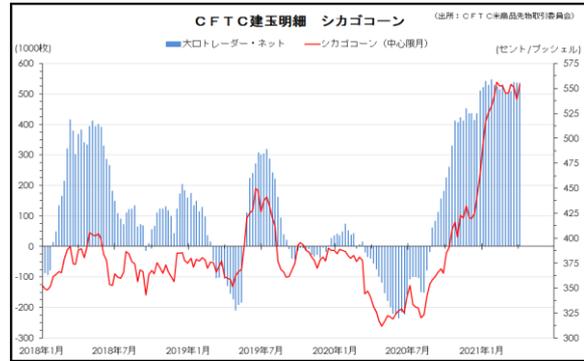
今春以降の生育に関しては、天候不良による作柄悪化は需給に大きな影響をもたらすだけに天候に対する意識が高まる。1400セントを挟んだ保合いが継続見通し。

-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

とうもろこし先物(4/9 清算値:32,630円)

【先週レビュー】

先週レポートで「順調な作付けが確認されるか、価格上昇に伴う需要減少(レイショニング)が確認されるまでは、押し目は買われやすい地合いが継続しそうだ」としたが、先週のシカゴコーン(5月限)は、目先の買い一巡感が強まるなか、売り優勢で始まった。



また、作付意向面積を受けた新穀限月の需給ひっ迫懸念が強まっている事などから、期近売り・期先買いの「ベア・スプレッド」が見られたことも期近の重石となった。ただ、ブラジルでのサフリーニャコーンの生産量見通しが、作付遅延を受けて予測を下回るとの観測が示されたことや、米中西部での気温低下予報を受けて作付け遅延懸念が強まったことから下値を切り上げた。

週末のシカゴコーン(5月限)は、続伸。一代高値を更新する場面も見られたが、前日に大幅上昇だったことで上値警戒感が強まったことに加え、材料織り込み感、そして週末を控えた玉整理の動きからマイナスサイドで終えた。

CFTC建玉明細(3/30現在)は、536,152枚の買い越し。前週(535,345枚の買い越し)から拡大。

【週間純輸出制約高(4/1までの一週間)・週間作物進捗報告(4/4までの週)】

80万7000トン(事前予想レンジ:40万~90万トン)

作付け:2%(前週-、前年2%、平年2%)

【今週の見通し・戦略】

21/22年度(新穀)の需給予想は5月需給報告が第1回目の発表になる。作付け進捗報告が始まったが、2回目以降からは徐々に市場への影響度を高める。シカゴは強気の需給報告を受けて、一代高値を更新したものの、長い上ヒゲ陰線で引けた。短期的な買い過剰感も強く、作付が順調に進むようなら、一旦は利食いで玉整理の動きも予想される。ただし、在庫率が10%を割り込み需給タイト感がベースにある為、押し目は買われやすいだろう。

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで《スエズ運河で大型コンテナ船が座礁し、急伸する場面もあったが、3月内に運河通行が再開し、上値は抑えられた。欧州やインドなどで新型コロナウイルスが再流行しており、インドで新たな変異種が見つかったことも重しとなった。世界第3位の石油消費国であるインドでは感染者数の増加に伴い、死者数が増え始めている。

「OPECプラス」は、米国などでは新型コロナウイルスのワクチン接種が急ピッチで行われており、石油需要が回復する見通しであることから、段階的に増産することで合意した。

年初から主要な商品の中でも強い動きを見せていた原油市場だが、3月は調整含みとなった。ただし、過去の月間騰落率では、4月・5月と強気の時間帯に向かう。株価の大幅な崩れがなければ、高値圏での推移が予想される。ただし、パターン分析からは、三尊天井の(右)肩を形成中で、ネックラインを割り込むと、一時的な売り圧力が高まりやすい形状である点には注意」としたが、先週のNY原油(5月限)は、サウジの自主減産終了も含め、石油輸出国機構(OPEC)プラスは5~7月にかけて日量200万バレル超の増産を行う予定の中、イラン核合意の修復に向けて関係各国の協議が始まっていることが嫌気され反落で始まった。新型コロナ感染が広がる欧州やインドなどで原油需要の回復が遅れるとの見方も相場の重荷となった。

ただし、米ISM非製造業景況感指数が過去最高だった事に続き、中国の3月の非製造業購買担当者景気指数(PMI)が前月比2.8ポイント上昇の54.3となり、米中のマクロ経済指標の改善で、原油需要の増加を見込む買いが入った。米エネルギー情報局(EIA)月報で今年や来年の米原油生産見通しを下方修正したことも支援要因。2021年は従来の日量1115万バレルから同1104万バレルに、2022年は従来の同1202万バレルから同1186万バレルまで引き下げられた。原油相場は回復傾向にあるものの、米国の石油産業は停滞を強いられる見通し。



東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(5月限)は、続落した。この日ウィーンで英仏独中ロ及びイランと欧州連合(EU)が次官級協議を開いたことで、さらにイラン核合意の米国の復帰へ向けてステップが進展したとの見方が上値抑制要因となるなか、欧州医薬品庁(EMA)が英製薬大手アストラゼネカに続き米医薬品大手ジョンソン・エンド・ジョンソン(J&J)製の新型コロナウイルスワクチンについても、接種者が血栓を発症した事例について調査していると発表したことで、今後のワクチンの接種鈍化による需要懸念に圧迫された。ただ、米株高で下げ幅は抑制された。



イラン核合意の関連国である英仏独中ロ及びイランと欧州連合(EU)が参加した会合が9日にウィーンで開催されて、米国の対イラン制裁の解除と、イランの核開発制限に関して設置された2つの専門部会が米国とイランに実行条件を提示した。また来週再協議することで合意した。

石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟国から成る「OPECプラス」は1日、協調減産の規模を5~7月に段階的に縮小すると決めた。サウジアラビアは日量100万バレルの自主減産を段階的にゼロにする。市場では需給改善が遅れる可能性が意識された。

CFTC建玉明細(4/6現在)は、511,725枚の買い越し。前週(531,310枚の買い越し)から縮小。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが9日公表した統計によると、同日時点の国内石油掘削リグ稼働数は、前週から横ばいの337基だった。

天然ガス掘削リグの稼働数は前週比2基増の93基。いずれも約1年ぶりの高水準だった。

Weekly-Report



CX週間展望 (4月12日~)

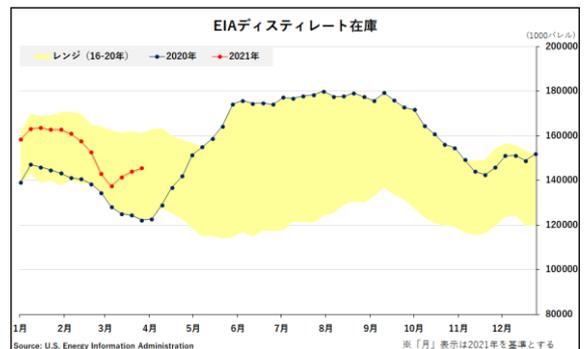
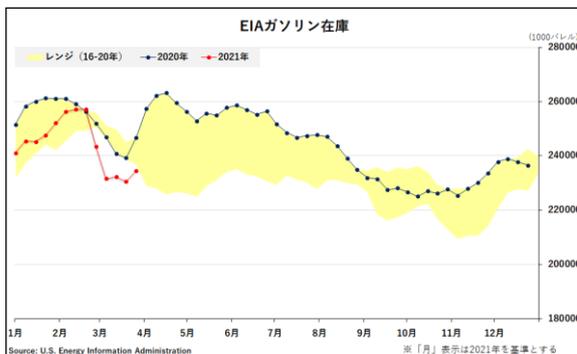
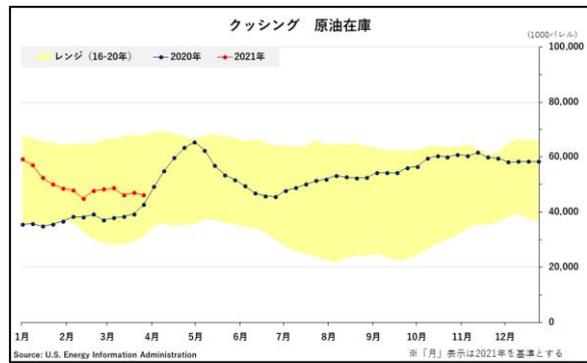
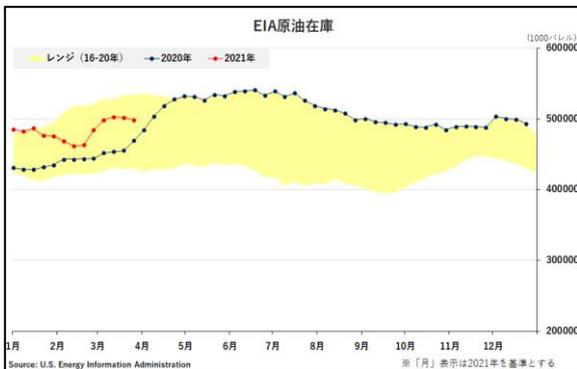
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫 (エネルギー情報局)】

前週比

原油	4億9831万バレル	352万2000バレル減少
クッシング	4632万バレル	73万5000バレル減少
ガソリン	2億3459万バレル	404万4000バレル増加
留出油	1億4555万バレル	145万2000バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報 (3月28日~4月3日) によると、ガソリンの週末在庫は、前週比3.5%減の174万2607キロリットル。灯油在庫は同6.0%減の143万0290キロリットル。

週間原油処理量は4.8%減の267万3304キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが6.2%減の78万6302キロリットル。

灯油が9.4%増の22万3138キロリットル。

11
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

東京原油(4)

【今週の見通し・戦略】

欧州や南米・インドなどでの新型コロナウイルスの再拡大と、米国や英国でのワクチン接種の進展や、追加経済対策に伴う景気回復期待との綱引き相場と言う構図の中、イラン関係のニュースが加わってきた。

イラン核合意(2015年)の当事国である英・仏・独・中・ロとイランは6日、次官級協議をウィーンで開いた。会合には2018年に合意を離脱した米国の代表団も参加。

イラン側は米国の制裁解除が先だとして「米国との協議は不要だ」(ザリフ外相)との立場を堅持している上、イランは今年6月18日に大統領選挙を控える。今回の選挙では、任期満了となるロウハニ師は出馬できず、穏健派がとなえた国際協調路線は信頼を失っており、強硬派大統領の誕生の可能性も高まっている。2020年の議会選挙でも強硬派が躍進し、革命防衛隊の発言力が強まっている。

イランが強気姿勢を取れるのが中国・ロシアのバックアップだ。イランと中国は3月27日、経済や安全保障を巡る25年間の長期協定を結んだ。中国の王毅外相とイランのザリフ外相が、25年間の経済、政治や貿易の強化等を謳った「包括的戦略パートナーシップ協定」に署名した。これにより中国はイランから25年間にわたって安定した石油の提供をイランから受けつつ、イランに対しては石油化学製品、再生可能エネルギーおよび原子力エネルギーインフラを始め民生インフラに関しても巨大投資を行う。

EUを仲介役とした間接交渉に期待が集まるものの、早期の歩み寄りには容易ではない。米では共和党だけでなく民主党からもイラン核合意への復帰に対する反対論も出ている。安易にイランや中国に妥協すれば、中間選挙に勝てないとの思惑も強い。仮に交渉が停滞すると、中東地域は不安定さを増す。既にイランは、核爆弾を開発できるとされる濃縮度20%のウラン製造に着手している中、イスラエルによるイラン核施設へのサイバー攻撃(4/11)が実施されている。

また、4月のNY原油の月間騰落率は、相関の高いNYダウと共に、強気優勢の時間帯だ。仮に「イラン・米国の間接協議」を経て、核合意へ向けての前向きなヘッドラインが入れば、一時的に下押す可能性はあるが、実際のイラン生産・輸出拡大が決まるまでは、原油の調整安も限定的となりそうだ。IMF経済見通しも上方修正されており、需要回復期待も強い。

【週間行事予定 (4/12~4/18)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	
4月12日(月)	8:50	日本	3月	企業物価指数(前月比)		
	18:00	ユーロ圏	2月	小売売上高(前月比)	-5.9%	
		中国	3月	社会融資総量	1,710.00(十億)	
		中国	3月	マネーサプライ M2(前年比)	10.1%	
		中国	3月	人民元建て新規融資	1,360.0(十億)	
4月13日(火)		中国	3月	人民元建て融資残高(前年比)	12.9%	
	15:00	英国	2月	国内総生産(GDP)予測値(3ヵ月比)	-1.7%	
	17:30	英国	2月	鉱工業生産(前月比)	-1.5%	
	17:30	英国	2月	鉱工業生産(前年比)	-4.9%	
	17:30	英国	2月	貿易収支(GBP)	-9.826(十億)	
	18:00	ドイツ	4月	ZEW 景気期待指数	76.6	
	18:00	ドイツ	4月	ZEW 現況指数	-61.0	
	21:30	米国	3月	コア消費者物価指数(CPI)(前年比)原数値	1.3%	
	21:30	米国	3月	消費者物価指数(CPI)(前月比)季調値	0.4%	
	---	---	---	OPEC月報		
			中国	3月	輸出(前年比)	60.6%
			中国	3月	輸入(前年比)	22.2%
			中国	3月	貿易収支(USD)	103.25(十億)
4月14日(水)	8:50	日本	2月	機械受注 船舶・電力除く(前月比)	-4.5%	
	18:00	ユーロ圏	2月	鉱工業生産(前月比)	0.8%	
	21:30	米国	3月	輸入物価(前月比)	1.3%	
	18:00	---	---	IEA月報		
4月15日(木)	8:01	英国	3月	RICS 住宅価格指数		
	15:00	ドイツ	3月	消費者物価指数(CPI)改定値(前月比)	0.5%	
	15:00	ドイツ	3月	EU 基準消費者物価指数(HICP)改定値(前月比)	0.5%	
	19:00	ユーロ圏	3月	準備資産総額	848.59(十億)	
	21:30	米国	4月	NY州製造業業況指数	17.40	
	21:30	米国	4月5日、週次	新規失業保険申請件数		
	21:30	米国	4月	フィラデルフィア連銀業況指数	51.8	
	21:30	米国	3月	小売売上高(前月比)	-3.0%	
	21:30	米国	3月	小売売上高自動車除く(前月比)	-2.7%	
	21:30	米国	3月	小売業販売高	-3.5%	
	22:15	米国	3月	鉱工業生産(前月比)	-2.2%	
	22:15	米国	3月	設備稼働率 季調値	73.8%	
	23:00	米国	2月	企業在庫(前月比)	0.3%	
	23:00	米国	4月	NAHB 住宅市場指数	82	
	納会	日本	---	東京一般大豆2021年4月限納会日		
	4月16日(金)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
		11:00	中国	3月	固定資産投資(前年比)	35.0%
11:00		中国	3月	鉱工業生産(前年比)	35.1%	
11:00		中国	3月	小売売上高(前年比)	33.8%	
11:00		中国	Q1	国内総生産(GDP)(前年比)	6.5%	
15:00		ドイツ	3月	輸入物価(前月比)		
18:00		ユーロ圏	3月	EU 基準消費者物価指数(HICP)改定値(前月比)	0.2%	
18:00		ユーロ圏	3月	EU 基準消費者物価指数(HICP)(食品・エネルギー・酒・タバコ除)改定値(前月比)	1.0%	
21:30		米国	3月	建設許可件数	1,720(百万)	
21:30		米国	3月	住宅着工件数	1,421(百万)	
23:00		米国	4月	ミンガン大 消費者信頼感指数 速報値	84.9	

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

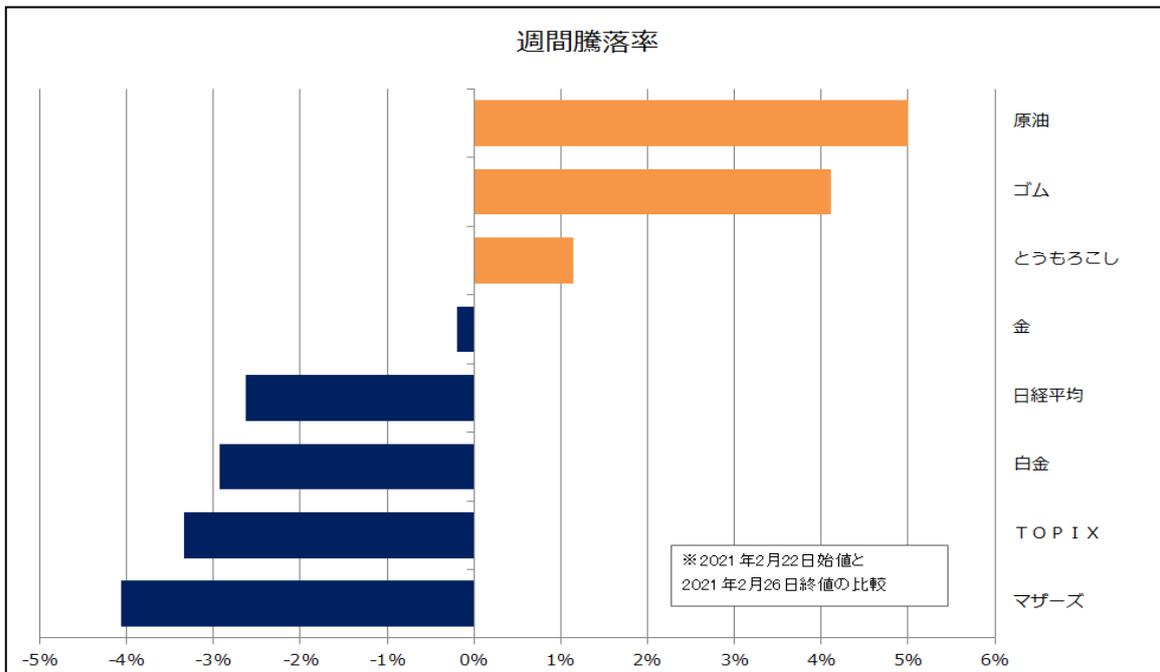
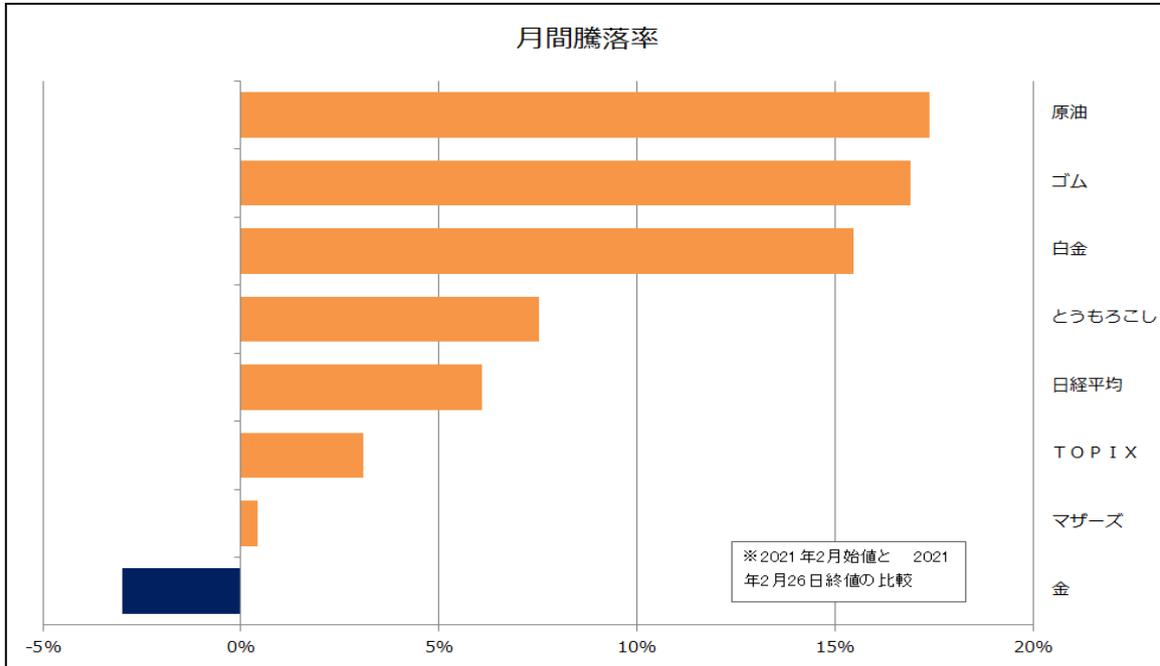
Weekly-Report

CX週間展望(4月5日~)



調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



14
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。